

今後の水素プロジェクトの創出について

- 【1】 構成団体各位へのアンケートについて
- 【2】 万博誘致について
- 【3】 大阪市事業の紹介
～平成30年度水素エネルギー社会の構築に向けた
新規プロジェクト創出事業～
- 【4】 意見交換

H2Osakaビジョンの 取組の方向性と取組内容

取組の方向性

- K I X水素グリッドプロジェクトや府中央卸売市場のメガワット級燃料電池導入といった府内での取組の経験を活かし、戦略的かつ幅広い分野での実証事業等のプロジェクトを民間企業と連携して創出。事業者の研究開発成果を実用化や事業化につなげる
- 水素エネルギー産業への参入ポテンシャルが高い府内中小企業等に対して、動機付けし、ビジネス参入をサポート

新たな 水素プロジェクト創出

府内事業者の水素エネルギー産業への
参入意欲醸成

中小企業等の 参入促進

水素エネルギー産業をけん引する事業者とのビ
ジネスマッチングまできめ細かくサポート

将来性のある
産業を大阪から
発展させる

< 基本的取組 >

① 産学官プラットフォームの運営

産学官が幅広く結集し、事業者間の交流やアイデア創出を図る「場」(プラットフォーム)として運営していくことにより、新たなプロジェクト創出につなげていくとともに、これらの取組を府内事業者や府民に幅広く情報発信していく

H2Osakaビジョン推進会議
事業者からの提案等を踏まえ、会議のもとに取組内容別の研究会等をそれぞれ立上げ、プロジェクト創出につなげていく

取組内容

② 正しい知識の普及と合理的な規制緩和の推進

- 水素エネルギーの普及にあたっては、水素について「よくわからない」等と感じている府民に正しく理解してもらうことが重要なことから、水素に関する正しい知識の普及活動について事業者と一体となって取り組んでいく
- 規制緩和することに合理的理由があると考えられるものについては、国へ要望していくなど積極的に取り組んでいく

< プロジェクト創出に向けた取組 ～水素の「製造」「輸送・貯蔵」「利用」のうち、「利用」分野を中心とした取組を推進～ >

① 産業用車両等への 水素エネルギーの導入促進

燃料電池フォークリフトや燃料電池バスの普及拡大、燃料電池船の実証事業の実施など、産業用車両等への水素エネルギーの導入を促進

② 純水素型定置用燃料電池の 活用モデルの構築

都市ガス等を機器内で改質した水素ではなく、機器に供給される水素を燃料とする純水素型定置用燃料電池の多様な活用モデルの構築を図る

③ 様々な水素プロジェクトへの挑戦

現在、実証段階にある水素発電をはじめとして、水素の特性を活かした取組の可能性を探るなど、大阪が新たな水素ビジネスの拠点となるように、事業者とともに積極的に取り組んでいく

【1】H2Osakaビジョン推進会議構成団体各位へのアンケートについて

趣旨

- 平成28年8月に発足した当推進会議では、FCバスやFC船の導入検討、業務用燃料電池の実証、水素の社会受容性の向上などに取り組んできたところ。
- 平成29年12月の水素基本戦略の策定をはじめとする水素社会構築に向けた国等の動きを踏まえ、地域特性を活かした水素エネルギーの利活用の拡大など、本推進会議の目的の達成に資する取組を継続・強化していく必要。
- 今後の当推進会議における取組の参考等とするため、構成団体に対し、誘致を実施している万国博覧会やIR等を見据えた水素関連プロジェクトの創出、現在の取組と今後の方向性等についてアンケートを実施。

アンケート結果概要

- アンケート実施期間 6月25日～7月9日
- 回答 19 / 23社（団体）
- 主な意見等
 - 1 将来における大阪での社会実装や万博誘致も見据えた水素関連プロジェクトの創出について
 - ・万国博覧会やIR会場でのアクセスや空港とのアクセスにFCバスやFC船を利用
 - ・再生可能エネルギーと水素発電の組合せなどによるCO2フリー水素でのエネルギー供給
 - 2 水素エネルギーの普及啓発について
 - ・子供から高校生、大学生までに広げたカリキュラムの作成、継続的な啓発活動の実施
 - ・普及啓発と減税・規制緩和の同時実施
 - 3 その他
 - ・集合住宅全戸にSOFCを設置した高層マンション
- ヒアリングの実施
 - ・上記、アンケートに回答いただいた構成団体のうち、数団体にヒアリングを実施。
 - ・普及啓発の手法や、課題、今後の取り組み等について意見交換を行った。